

2026 AUTOBACS SUPER GT Round8
MOTEGI GT 250km RACE

apr GR86 GT

2026 AUTOBACS SUPER GT Round8　MOTEGI GT 250km RACE

開催地：モビリティリゾートもてぎ（栃木県）／4.801km

11月8日（予選／決勝）
天候：晴れ　コースコンディション：ドライ　観客数：33,000人



ABSトラブルに見舞われながらも完走。織戸のラストレースを走り抜く

2027年以降に延期となっていたセパン大会の振り替えとして土曜日に第3戦、そして日曜日に2026シーズンの最終戦となる第8戦が開催されるモビリティリゾートもてぎラウンド。

30号車 apr GR86 GTは、前日の第3戦決勝でフロントまわりを損傷してリタイア。異物を吸い込んでいる可能性もあることから、スペアエンジンに載せ換えることを決断した。2台体制のaprは、僚車31号車 apr LC500h GTも第3戦で左リヤのサスペンションを損傷していたが、30号車と31号車のメカニックが協力して2台を修復。作業を終えたのは深夜3時だった。

2連戦という変則開催でただでさえ負荷がかかるメカニックにさらなる負担を強いることになったが、この第8戦で引退する織戸学を、第3戦に続いて途中リタイアで終わらせるわけにはいかない。織戸は2018年にaprに加入。ともに戦ってきた仲間のため、チーム全員が最後まで全力でサポートする。

公式予選　11月8日（日）
25位　9:45～10:05

第8戦も午前中に20分間の計時予選、午後に250kmの決勝を行うワンデー開催。土曜日の第3戦とは別大会として扱われるため、予選に出走するドライバーは第3戦と同じでも別でも構わない。今回も30号車は平良のスピードに託した。

予選開始時の気温は15℃、路面温度は20℃。気温は前日と変わらず、路面温度は2℃上がったコンディションだ。平良は開始と同時にコースへ出て、修復された車両と路面コンディションを確認するとすぐにピットへ。その後、残り10分強のタイミングでアタックに向かう。

前日よりも入念にタイヤを温めて6周目にアタックし、1分47秒125を記録してこの時点で14番手。翌周もアタックを続けて1分47秒109に更新したが、路面温度がタイヤの適正温度レンジを下回り、本来のグリップを得られない。ライバル勢のほうがタイムアップの幅が大きく、25番手で予選を終えた。





織戸学選手
「今日の予選も、気温や路面状況に対してタイヤが十分に機能しませんでしたね。タイヤは決勝向きなので、午後になって気温が上がってくれることを願っています」



平良 響選手
「コンディションは昨日とほとんど変わらず、タイヤは厳しいだろうなと思っていましたが、その通りになってしまいました。タイヤの内圧を上げたり、セッティングを変更したりしましたが、練習走行なしでの予選ではいろいろと試すことができず、正直言うと何が原因なのか分からない状況でした」



金曽裕人監督
「昨日よりもタイヤを温めるのに時間をかけ、内圧も上げましたが、最後までタイヤは発動しませんでした。温度レンジが合っていないと、どんなにウォームアップしても高いグリップは得られませんね。予選は厳しい結果になってしまいましたが、メカニックが夜中まで修理してくれたことに感謝。決勝はしっかりと走り切ります！」

決勝レース（50周）／25位　11月8日（日）14:07～15:42

フォーメーションラップが開始された14時のコンディションは気温17℃、路面温度23℃。予選時よりも、30号車のタイヤに適した温度まで上昇した。

スタートドライバーは、これがスーパーGTでのラストレースとなる織戸。25番手グリッドから追い上げを狙ったが、2周目にブレーキがロック、ABSにトラブルが発生した。

織戸は走行を続けたが、ABSが効かない状態ではペースを上げられない。ブレーキを攻めてタイヤに熱を入れることもできず、チームと織戸は目標を完走に切り替え、無理のないペースでラップを重ねた。そして17周でピットに向かう。

当初はタイヤ無交換のプランもあったが、最後まで走り切るためにリスクを冒さず、4輪を交換して給油も行い、平良に交代。このとき、ABSの復旧を試みて電気系統をリセットしたが、直ることはなかった。レース後に判明したことだが、原因は前日の第3戦で追突した際にクールスーツの冷却水が漏れ、ABSユニットに飛散していたことだった。

平良はABSを装備しないフォーミュラでの経験も豊富だが、30号車はABSありきでタイヤを選び、セッティングも施している。本来のレースペースでは走れず、淡々とした走りを強いられたが、それでも完走してチームポイントを獲得するべく、堅実に周回を重ねた。結果は25位。望んだリザルトではなかったが、チームポイントを2点獲得し、2026シーズンを締めくくった。トラブルに見舞われながらも、織戸のラストレースはチーム全員で完走をつかみ取る形で幕を閉じた。









織戸学選手
「2周目にABSが効かなくなり、一度ブレーキをロックさせてしまうと、もう強くは踏めないですよね。平良選手に交代するときにイグニッションをリセットして、いろいろ対処もしましたがダメでした。最後のレースでトラブルが起きてしまったのは残念だし、決して誇れる順位ではありませんが、無事に完走して、やり切ることができました。永井選手とチーム、そしてファンやスポンサー、僕をサポートしてくれたみんなに感謝します。ありがとうございました」



平良響選手
「ABSが効かない状態だと自信を持ってブレーキを踏むことができず、淡々と走るしかありませんでした。今年最後のレースで悔しい結果になってしまいましたが、僕は今年からチームに加入して、ヨコハマタイヤはバチッと合えば上位を狙えることも証明できたと思います。タイヤの良い面も悪い面も見えてきただけに、来年からタイヤがワンメイクになるのは残念です。気持ちは、ヨコハマタイヤとも織戸選手とも、まだまだ一緒に戦いたかったです」



永井宏明選手
「ファンの方は織戸選手の走りを見たいだろうと思い、もてぎでは織戸選手に乗ってもらいました。1戦よりも2戦のほうがチャンスも増えるだろうと思っていたのですが、スーパーGTは難しいですね。それでも、最終戦を走り切れたのは良かったと思います。今年は平良選手に加入してもらって、若くて速いドライバーの走りを経験できて刺激的なシーズンでした。織戸選手とも、何年も一緒に戦えて良かったです。心から感謝しております」



金曽裕人監督
「この2連戦は、持ち込んだタイヤのスペックがレース結果を大きく左右しました。そして、僕たちは温度レンジを外してしまった。ABSも昨日の影響からバグり、タイヤもパフォーマンスを出せない状況で、無理をせず、完走でのポイント獲得を最優先とする方針に切り替えました。織戸選手の最後のレースをかっこよく終わらせることができなかったのは非常に残念ですが、織戸選手のモータースポーツ界への感謝の気持ちを強く感じました。そして、その織戸選手にシートを譲った永井選手。ふたりとも素晴らしくかっこいい男です。みんな大好き織戸選手には来年、30号車の監督になってもらうようにオファー中です！」

APR RACING

PARTNERS

豊田通商 TOYOTA TSUSHO
日本化薬
DENSO
COROLLA MIE NETZ NOVEL MIE
Sora・Investment
Shinko
Suzuka Corolla Mie
Matsusaka Corolla Mie
Yokkaichi 伊勢
KYB
KURIMOTO
住友電装
OBERON
DENSO
TAC
SHINNIHON
Castrol
損保ジャパン
IKEDO archetype
愛知産業
東京海上日動
ニエスコム
JTB SPORTS
モビリティパーツ
OGURA CLUTCH
ADVICS
MOTUL
アイチオート用品
CPC
鈴与レンタカー
LEXUS
TGR-DC
TRD
BRIDGESTONE
RAYS
TOYOTA
TRD
YOKOHAMA

